

ごとう通信

第 217 号

平成 31 年 1 月 1 日

皆様、明けましておめでとございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は異常気象で寒波に猛暑で体調を崩された方も多かったと思います。今年も気象状況は読めませんが、ご自分の体調管理にはくれぐれもお気を付けください。

さて、昨年末は歯科医師として貴重な経験をしました！十二月初め、右手の人差し指の爪との境あたりにけがをしてしまった。そんなに重症でもなかったのに特にケアもせず、普通に生活をしていました。しかし、そのけががなかなか治らず、逆に

大きくなってきました。右手の人差し指ですからことあるごとに擦れてしまったりしていたんです。そんな時、倦怠感に悪寒とで体調を崩してしまいました。

てつきり風邪だと思っていました。夜中に右手の人差し指の痛みで目が覚め、この傷の炎症だと分かりました。その夜、すぐに鎮痛剤を飲んで休みました。

翌朝！体調の悪さは続いていましたが、大きな異変にすぐに気づきました。口の中が熱っぽく、歯を合わせられないほどの痛み。驚いて鏡を見ると、歯ぐきが「どす黒い」色になって腫れていました。ゆっくり噛んでみると、奥歯が先にあたり、前歯を合わせられません。とにかく口中が痛い。しょうがないので抗生剤を飲み、朝食を抜いて出勤。診療の合間に歯

ぐきマッサージ、歯ブラシ、そして洗口液でのうがいを続けていました。そして昼食。硬いものは無理なのでそばを食べてみました。が、痛くてよく噛めません。触ると上顎の左右の奥歯がぐらついてきています。いっそ自分で抜いてしまおうかと思っただくらい（奥歯に麻酔をする自信がなかったので断念）。その後も服薬、マッサージ、洗口液でのうがいを続けて2日後、腫れが引いてきたのがわかりました。そして少しずつ硬いものが食べられるようになってきました。指の傷も少しずつ良くなってきました。

とにかく、こんな短時間で口の中はこんなに悪くなるのか！ということに驚きました。しかも、体調から来